

分 かり と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

▶ 歴史

地理

お 題

奥州藤原氏は なぜ滅ぼされたのか？

(東京大学 2013年 日本史)

「Z会ナビ」が
Webサイト
でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

12世紀末の日本では、西日本を基盤とする平氏、関東を中心に東海・甲信地方周辺を基盤とする源頼朝、東北地方を基盤とする奥州藤原氏の三つの大きな武士勢力が並び立ち、最後には源頼朝が勝利して、鎌倉幕府を開きました。(1)～(3)の文章を読んで、頼朝が全国統一の仕上げとして奥州藤原氏を滅ぼさなくてはならなかったのはなぜか、説明しなさい。

(1) 1126年、奥州藤原氏の藤原清衡は、平泉に中尊寺が完成した際に、前半では自らを東北・北海道の異民族や北方の海洋民族を従える頭領と呼び、後半では天皇・皇族らの長寿と国民の安楽を神仏に願っている。

(2) 1185年、頼朝は弟義経を討ち滅ぼすことを目的に、自分の家臣を日本各地の土地の治安維持に当たらせる権限を朝廷に認めさせた。その後義経は、奥州藤原氏のもとに逃げ込んだ。

(3) 奥州からの貢ぎ物は奥州藤原氏から京都に直接納められていたが、1186年、頼朝は鎌倉を通す形に改めさせた。3年後、奥州藤原氏を滅ぼして平泉に入った頼朝は、整った都市の様子と豊富な財宝におどろき、平泉を、自身の本拠地である鎌倉の都市づくりの手本とした。

今回は、鎌倉幕府が作られる前後の時期の話です。平氏・源氏に比べて奥州藤原氏を知っている人は少ないかもしれませんが、2011年に世界遺産登録された平泉を築いた有力武士です。どのような武士だったのか、見ていきましょう。



イラスト：瑞木匠

朝廷・義経との 独自の結びつき

奥州藤原氏はすごかった!

文章(3)を見ると、平泉は敵である頼朝が手本にするほどの完成された都市であったというので、奥州藤原氏の力の大きさがわかります。また、「豊富な財宝」とは、文章(1)にあるように、北方の民族と交易をしていく中で築いたものと考えられます。

東北地方より北方に住む民族に対する支配が

行き届かない朝廷にとって、それらの頭領である奥州藤原氏が朝廷に尽くす姿勢をとることは、たいへん好ましいことでありました。奥州藤原氏も、そのような立場を利用して、朝廷を味方につけていたと考えられます。

頼朝と義経と朝廷と奥州藤原氏

1185年、平氏との戦いが終わるころ、頼朝と弟の義経は次第に対立するようになります。朝廷はそれを利用して、義経に頼朝を討つよう命を下しますが、逆に頼朝から義経征伐の命を下すよう迫られ、許可してしまいました。

義経はかねてより縁のあった奥州藤原氏を頼って東北に逃げます。朝廷と独自のつながりを持つ奥州藤原氏のもとに、敵対する弟が逃げたとなれば、頼朝もだまってはられません。こうして、東北を治めていた巨大勢力、奥州藤原氏は滅ぼされることになったのです。

【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

歴史を知ってからその場所を訪れると、いろいろと見えるものも変わってくるものです。ぜひみなさんも平泉を訪れてみてくださいね。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。